

第 23 号

平成 16 年 1 月 1 日

〈発行〉
社江田島町シルバ－
人 材 セ ン タ ー

江田島町中央 1-15-15
江田島町シルバ－ワークプラザ
TEL (0823) 42-5211
FAX (0823) 42-5051

シルバ－ 江田島



シルバーフェア 2003 広島
江田島も参加しました

新年のごあいさつ

理事長 山佐 一男

新年おめでとうございます。
会員の皆様にはお健やかに新春をお迎
えのこととお喜び申し上げます。

昨年は経済及び雇用情勢の大変厳しい
年でしたが、お陰様で事業も順調に運営
することができました。ここに心からお
礼を申し上げます。

さて、今年も昨年と同じように厳しい
情勢が予想されます。その厳しい情勢の
中で、更に発展するためにはシルバ－人
材センターの原点に還えることが必要で
す。

原点とは、働くことを通じての「生き
がい」と「社会参加」ではないでしょう
か。永年勤めた職場を退職し自分を振り
かえった時、お陰様で、元気で、しかも
やる気がある。そこで「今まで永い間お
世話になった社会へご恩返しをする」こ
れがシルバ－人材センターの発想と思っ
ます。その発想の上に立って長年の知識
と経験を生かし、生きがいと社会参加を
追求することが必要です。

又、今年も町村合併に伴い、統合を
実施しなければなりません。そのために、
関係団体、事業団体等とよく打合せを行
い、良いシルバ－人材センターの誕生に
努力したいと思っております。

終わりに皆様方の益々のご発展とご健
勝を祈念申し上げて新年のごあいさつと
いたします。



江田島町長 曾根 薫

新春ごあいさつ

平成一六年の新春をご家族お揃いで迎えられたこととお喜び申し上げます。

今年も健やかな年であることを皆様と共に祈念したいと存じます。

(社)江田島町シルバー人材センターでは、毎年会員の増加と業績の向上

七月三日、江田島警察署交通安全課長の山本利行氏を招いて高齢者の交通安全講習会がもたれました。

管内の物損事故は県下一

山本課長は、広島県全体では交通事故の件数は大きく減っている、数字をあげて説明しました。例えば昨年一年間の死亡者数は前年比四九人減の二〇二人と昭和四二年以降最も少ない数になっている。

ところが、江田島警察署管内では、事故の発生件数、負傷者数とも増えており、特に物損事故は県内二一警察署の中で一番多くなっている。例えば負傷者は六六人、前年比六人増、物損事故は前年比四九件増の一九四件で、毎日一件起きていますことになる(数字は六月三〇日現在)。

「他人事でない」を心に刻んで

－ 高齢者の交通安全講習会 －

に努力されており、着実にその成果が現われており敬意を表するものです。昨年中は、本町発展のためににかとご支援、ご協力を賜り衷心から感謝申し上げます。

四町合併問題も諸先輩の汗とご努力そして皆々様の積極的なご支援のお陰で、いよいよ江能四町が合併して新市「江田島市」が誕生する予定となりました。

すでにご存知のように、我が国の特に地方公共団体を巡る財政状況は、

雨の日に事故が多い

事故は雨の日に多い。それは見えにくいことと、スピードの出し過ぎによるスリップが原因の七八%。人身事故は六五歳以上が全体の三二%を占めている。また、自動車事故は交差点を右折する時に起きている。

「他人事でない」を心に刻んで

人間、年をとると体の動きが鈍くなり、目が見えにくく、耳が聞こえにくくなったりして、周囲の状況が正確にとらえにくくなる。

また、足もとがふらふらして転びやすくなる。そこで次の点に注意してほしい。

夜間外出するとき

白っぽい服装や反射材などを身につける。



誠に厳しいものがあり、また、本格的な地方分権の時代を迎えるとき、地方公共団体では「自己決定・自己責任」の決断を必要とします。従ってこれらの状況を踏まえ、この時代の要請を遂行するためには、この大事業を完成させる必要があります。江能四町の住民が仲良く、安全で安心して暮らせる、住んでいてよかった、また、住みたいと思われる町づくりを行うためにも、皆様お一人お一人のご理解とご協力が不可欠

道路を横断するとき

信号を守り、左右の安全を確かめる。無理な横断や、車のすぐ前や後ろの横断はやめる。

自転車に乗っているとき

交差点では一時停止をして安全を確かめる。青信号の交差点では、左折してくる車に注意する。酒を飲んだの運転は絶対にしてはいけない。

自動車に乗ったとき

横断歩道上の歩行者や自転車に道をゆずる。見通しの悪い交差点では一時停止して安全を確認する。勿論スピードの出し過ぎや酒を飲んでの運転はしない。

飲酒運転の罰則は厳しくなり、罰金は五〇万円となった。

いずれにしても、交通事故は「他人事ではない」を胸に刻んで日々行動すること、という趣旨の話でした。

副理事長に風呂井氏を選任

一月一八日開催の第三回理事会で、森 修一前副理事長の死去に伴い、空席となっていた副理事長に風呂井さんが選任されました。風呂井さんは平成七年から一四年までの七年間事務局長をつとめておられました。

ようこそ新しい仲間みなさん

新しく入会された方々

敬称略

寺下 一年 (津久茂)	前原 秀浩 (中)	新田 義夫 (小)	田中 久子 (小)	上田 英夫 (中)	北岡 定雄 (江)	奥本 増美 (切)	藤田 吉晴 (中)	森井 勉 (鷲)	藤代 聖宣 (中)
-------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------

南国土佐路へ

親睦旅行に34人参加

互助会行事の一つである親睦旅行を、本年は9月25日、26日の2日間34人の参加を得て、高知方面に行きました。第1日目は、小用港集合、午前8時05分の呉行きフェリーに乗船し、いよいよ待ちに待った旅行がスタートしました。呉港には、オレンジ色の車体の本四バスが、ドライバーさん、美人のガイドさんと共にスタンバイしており、足早に乗車し、発車オーライ。

早速、つまみ等のおやつと、飲物が配られ、呉市内、黒瀬町を經由し、西条ICから山陽道へと進めました。途中小谷SAでトイレ休憩、西瀬戸尾道ICから「しまなみ海道」へと進み、瀬戸内海の多島美を車窓から眺めながら、世界初の三連吊橋の来島海峡大橋を渡り、来島SAで休憩の後、今治ICから昼食場所の今治国際ホテルへと向かいました。同ホテルは、市内ではひととき高く、23階レストランで、バイキングの昼食です。眼下の今治市街地や今治城、遠くには先程渡ってきた来島海峡大橋が一大パノラマの如く見え、絶好のロケーションです。

今治湯ノ浦ICから、松山道、高知道走り高知市へと向かいます。高知道に入ってから、瀬戸内海から太平洋側へと、19個のトンネル

をぬけて走ります。笹ヶ峰トンネル4310mをぬけ、標高4000mの高速道を通り、明神トンネル3730mをぬけ、四国の中でも年間雨量が最も多い土佐山田町繁藤地区等の説明を聞きながら高知ICで下りました。土佐藩二四万石の城下町として栄えた高知市は、市内に高知城がそびえ立ち、城の周囲には名物の市が毎日、早朝から夕方まで店を出しているそうです。中でも日曜市は最も店数が多いとのこと。

今日、最初の見学地は古くから「月の名所」と歌われた高知を代表する景勝地「桂浜」に向かいます。高知市の南、太平洋に面した浦戸地区にあり、白砂青松の桂浜は、その美しさを高知出身の文豪、大町桂



月が「みよや見よ みのな月のみの桂浜 海のおもより いづる月かげ」と詠んでいます。太平洋を望む高台にひととき坂本竜馬像は、

和服姿にブーツをはき、懐手に口もとをキユツと結んで、はるか太平洋を見すえて立つ姿は、土佐が生んだ維新の志士らしい凛々しさをたたえています。海辺を散策する人、一直線の水平線に驚く人、竜王岬まで足を伸ばす人など思い思いに南国の初秋を楽しみました。さすが南国です。散策するだけで汗がにじみました。

桂浜を後にして再び高知市内へ。江戸時代に地元の豪商が架けたといわれる「はりまや橋」は、よさこい節に歌われる悲恋の舞台として有名です。朱塗りの欄干の太鼓橋は高知のシンボルにふさわしいスポットです。車窓からはチラッとしか見れず残念。土佐電鉄の県庁前からほど近い所が、今夜の宿泊地「三翠園」です。バスの中で添乗員さんから高知市内のマップと部屋割りをもらい、心は宴会のことでいっぱい。老舗旅館三翠園の入口に立つ下屋敷は、幕末の藩主山内豊信が家臣の屋敷地を召し上げて設けた下屋敷で、国の重要文化財の指定を受けています。全国的にも数少ない本格的な武家屋敷の一つだそうです。

各部屋に入り、お茶を一服、土佐日記のお菓子を食しながら足を伸ばし、次は大浴場へ。三翠園の風呂は大浴場を始め、露天風呂、サウナ、あわ風呂などがあり、市内ではめずらしく温泉だそうです。お湯をちよつとなめてみると塩からい味……。18時30分から宴会です。土佐名物の皿鉢料理などに箸をすすめながら、

自慢の喉を披露する人、冷たいビール、熱燗で喉をうるおす人、日本舞踊の飛び入りもあり、楽しいひとときをすごしました。

2日目、宿の皆さんの見送りで一路西島園芸団地へ。甲子園の3倍の広さをもつ観光農園で、敷地内には11棟のビニールハウスが立ち並び、早速取りたてのスイカとメロンを味わい、その後は高級メロンのお買物。高知道南国ICから大豊ICを経て、いよいよ「心をいやすかくれ郷」祖谷のかずら橋へ。昼食場所のホテルから昔なつかしいボンネットバスに乗り換え、「祖谷のかずら橋やくものゆの如く 風も吹かんに ゆらゆらと……」と民謡を聞きながら奥へ奥へと登っていきます。

平家伝説が残り、四国の秘境の雰囲気が感じられる野生のシナチクカズラで編まれた長さ45m幅2mの吊り橋。ゆらゆら揺れてスリル満点。昼食は、祖谷名物の鮎の塩焼き、でこまわしなど山の幸を存分にいただきます。再びバスに乗車し、途中の大步危渓谷では、雄大な吉野川が造り出した自然美を高台から眺め、紅葉の季節だったらなお良からうと思いつつ、井川池田ICから徳島道、高松道を進み、坂出JCから瀬戸中央道に入り、与島PAで休憩と最後の買物をした後、一路山陽道を西へ走り、西条ICから呉市へ、予定通り19時40分ごろ無事江田島へ到着、楽しい旅もピリオドを打ちました。

炎天下の仕事なので、 度々休みをとります



八月六日、石風呂の墓地のまわりの除草の現場に行きました。私が着いたのは九時ごろ、作業はすでに始まっていました。

すでにみんなの作業衣は汗で黒く濡れています。雑多な種類の草が二メートル以上も伸び、それがびっしり生えています。

「伸びすぎているので、短く切らないと焼却場がとってくれない」

と言いながら、カマで刈っています。スッポンの茎はハチクほどの太さになっています。

「草は伸びきっているのです、まず上半分を刈り、そのあと根元から刈ります」

「もう草を通りこして木になっている。もつと早く言ってくれれば楽だったのに」

草刈機を使っている人も、

支える仲間

草を集めている人も仕事の手を休めません。

「作業は何時からですか」

「八時から。昼までの仕事です。この空き地だけでなく、川筋も刈るので一〇人をこえる人が来ています」

草を刈る人は八人、集めている人は四人でした。

「二回刈るので、手がだるくなる」

それでも作業の手は休めません。

「事務局は安全のためにチップソーを使えというが、こんな場所では二枚刃でないと切れない。草の種類、伸び方、場所によっては二枚刃を使うことを認めてもらえればと思います」

と数人の人が話してくれました。

「作業はできるだけ休憩をとるようにしています。そうしないと体もたないから」

作業はまだ続いています。二〇分ほどして、その場を去りました。

暑いので朝早く 来て掃除する

八月四日は、切串の上村棧橋の待合室の掃除を七時前に着きました。その時はすでに、待合室の床の拭き掃除の最中でした。

「二人で一週間交替で毎日しています。今は暑いので、朝五時半に来て始めます。時間

は三時間、小用港のように一日あればと思います」

拭き掃除の手を休めないで話してくれました。

「商品の陳列棚が増えるので、動かせる物は動かすが、動かせない物はその下を拭きます。小用港と違って、ここは陳列棚が多いです」

話しながらモップの水洗い。

「毎日しているので、あまり汚れていません。でも、暑いので汗をかき何回も顔を洗います」

「お客様の反響は」

「ご苦労さま、いつもきれいにしておらうと、ありがとう、と言われます。声をかけてもらおうと仕事に張り合いが出ます」

「掃除の場所は」

「待合室の中、トイレ、窓ガラス拭き、それに外まわりです。朝早く来るのは、暑さもありますが、待合室がきれいになっていると、利用されるお客さんも気持ちがいいだろうと思つて」

「でも、時々、トイレが汚れていることがあります。もつと気をつけて使ってくれればと思います」



待合室の管理人のおばさんは、「シルバーが来ない前は四時半に来て掃除をしていました。最初は三人が交替でしていたのですが、他の二人が体をこわしてやめたので、私一人。その私も体調をくずしたのでシルバーに頼みました。シルバーの方が来てくれて本当に助かり、頼んでよかったです」と話してくれました。

ボランティア活動に 四六名参加

一〇月二十五日、昨年から始めた「シルバー月間」の行事の子どもの国広場の清掃が行われました。

朝八時半、ワークプラザに集まった会員は作業現場に向けて出発します。一五分後、現場に到着すると、トラックから草刈機、ほうき、シートなどを下ろします。草刈り班は草刈機の整備。刃の取り替え、ガソリンの注入。それを終えた草刈機の試運転。エンジン音があたりに響きます。

九時前、公園の入り口の道路上に集まった会員を前に崎山事務局長は、「シルバー月間の行事として始めたこの奉仕活動に四六名が参加してくださり、ご苦労さまで。今日は天気もよいし、お互いに怪我のないよう十分注意し、公園をきれいにしましょう」とあいさつ、下平次長が渡す軍手を受けとって清掃作業が始ま



りました。
 ー 広場やその斜面に散った草刈機のエンジン音が響きはじめ、次々と草が刈りとられていきます。それを待っていたかのようにほうきを持った会員が刈りとられた草を掃き集めます。草刈機で刈るのがむずかしい場所は鎌で刈ります。道端に植えられているツツジの刈り込み、溝に落ちている落ち葉の掃き出し。刈りとられた草や落ち葉を集め、シートに乗せて山裾に捨てる。みるみる広場やその斜面がきれいになります。共同作業のすばらしさを感じました。昨年は雨にたたられた清掃作業でしたが、今年は晴天。皆さん、いい汗をかかれると思ひながら現場を去りました。

われら町を

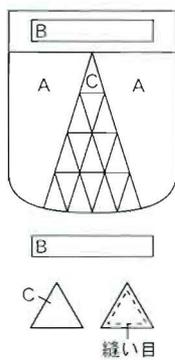
楽しいけど 手間がかかる

ーソーイング講習会ー

七月二日と九日、ワークブラザでソーイング講習会が行われました。講師は徳勢先生、参加者は一三人でした。
 二日の午後、作っているのはポーチ（きんちゃく）。先生は「今日で三回目ですが、上手です」と話してくれました。

皆さん、縫うことに慣れていて、お上手です」と話してくれました。
 「先生が材料をここまで用意してくださるのは大変と思います。ありがたい」

私が訪ねた時は、色違いの三角形の布（C）を二枚重ねてまち針でとめ、それを縫い合わせる作業の最中。「楽しいけど、手間がかかる」



Cを二枚（色違い）の端を縫い目に合わせてまち針で止め、縫い合わせます。

「やれやれ、一箇くつついた」という声に

「競争じゃないんだから」

という声がかかります。隣り同士、教え合っている光景も見られました。



「手作りともなれば手間がかかる。それに組み合わせの色の決めるのが大変」
 「材料は？」
 という私の問いに、先生は

「端切れを毛糸以外は何でも使います」
 「片面が仕上がると、キルト芯をはさんで上から縫います。そうすると凹凸が出て、やわらかくなります」

九日（仕上げ）

私が訪ねた時には袋の裏を表にして重ねて縫い合わせの最中でした。皆さん、黙々と針を動かしています。「若い目がよく見えるので時間がかかる」

という声、また「あああ」という嘆息も聞こえてきました。縫いあげたが、袋の下の曲がりの部分がつき出て、先生に「ほどこいて縫い直す」と言われている人。

「こういう趣味を持つのはいいことです。手芸クラブを作って続けられたら」

と私が言うと、

「いいわね。理事長さんと事務局長さんに話しておいてください」
 「わかりました」

と答えて、その場を去りました。

きつとすばらしいきんちゃくが出来あがることでしょう。

シルバー人材センターに 期待するもの

中央 西村 勝利

私がシルバー人材センターにお世話になるようになって一年余り。

昨年の八月、酷暑の中の草刈りから始まりました。色々な作業があり、内容の豊富なことにも驚きました。公園の除草、浄水場の砂かき、これらは町民の生活環境を守る大切な仕事です。今迄、広島に通勤するだけで水、林道など密接な環境がシルバーの人たちによって守られていたことは知るよしもありませんでした。四二年間、江田島・広島の通勤だけで、町内のこと、人については無知です。私にとって最もよかつたことは、人を知ることでした。町内の人を一人でも多く知り、先輩諸氏からいろいろなることを学びたいと思っています。また、このリストラ時代に仕事をさせてもらっていることです。このことは、余暇などに自分の趣味活動が幅広く出来るということにもなります。

これらのことを大いにシルバー人材センターに期待して、これからも安全就業に気をくばり、からだの健康は勿論、心の健康も維持したいと思っています。

60代は第2の青春

中央 八木 信寿

ある日、ふと思立ち、家にいても濡れ落葉になるんじゃないかなあーと思ひ、シルバーに入る決意をしました。

その動機は、先ず、地域住民への貢献と自分自身の体力の維持、そして人との出逢いでした。

入会には、少々不安がありました。自衛隊と云う硬い枠の中で、30数年間いた者が、皆様にどうしたら馴染めるかが一番心配でした。

しかし案ずるより、生むが易しでした。会員の皆様に後押しをして頂き、今日に至っています。感謝の一言です。先日友達が本を持って来て、この本を読んでみると置いて行きませんでした。焼酎を呑んで寝ようとしたところでしたが、仕方なく読んだところ、私達の年代を鼓舞する本だと思ひ、むさぼり読みました。

読んだ感想を羅列します。これからの指針になればと思ひますが、どうかなあ。

○先ず、60代は長く豊かな「人生の午後の時間」、自分で自分を育てていく季節。まろやかに。

○60代は老年期ではない。老年への準備が始まる「中年期」にあたる。

○常に登り坂を登っている気持ちで、自分自身を作っていく季節。

○肩書きをすることで、又、新しく得るものがたくさんある。

○ストレスを楽しむに、活かすことで、脳も若返る。

○歩け歩けが、ストレスに勝つ最善の手段。

○真ん中の太い足を鍛えるためにも両足を使ってください。へへ……。

○60歳からは、身体を使いすぎないように「使わなすぎ」が心配。

○朝のあいさつが一番。小学生でも出来るようになった。

全ての動物は、自分自身を制御して、懸命に生きています。人は自分の都合の悪い事は自分で避ける。人間は万物の霊長です。太いに身体を動かし、深刺とした第二の青春を過ごしましょう。

この広い世界だれのもの。人間のものは誰のもの。皆様のもの。俺のもの。そして君のもの。皆んなのもの。うまく表現できませんが、楽しくやっ



高齢者の健康管理シリーズ 18

あなたの爪は大丈夫ですか？

歳をとって歩けなくなったり、寝たきりになる原因は、単に脳卒中などの病気や骨折などによる筋力の低下、麻痺だけでしょうか。

実は高齢者が歩けなくなる原因のひとつに足指の爪のトラブルがあることを忘れてはいけません。

人間は二本足で全身の体重を受け止め、足の指で大地をしっかり踏みしめて立ったり歩いたりすることが出来ます。その中でも大きな役割を担っているのが爪です。爪がないと、足の指に力が入らないため、バランスをうまく取ることができません。だから足の爪にトラブルがあると転

て行きましょう。

事務局だより

互助会のご案内

センターの会員に加入すると、希望者は互助会へ加入してもらいます。

この互助会は、会員同士の親睦を深めることを目的に作られました。

会の活動は、会員慶弔(退会時の餞別・入院見舞い・死亡香料)や年に一回の親睦旅行、四月の花見会、一二月の忘年会など盛りだくさんです。

未加入の方は、ぜひ互助会へお入りください。

会費未納の方へお願い

本年度会費一、〇〇〇円を納めてない会員さんは、事務局へ納付してください。

会員としての自覚と使命を持ちましょう

発注者の方は、皆さんの就業先での就業態度をよくみておられます。

発注者だけではなく、隣近所にも迷惑をかけないよう、礼儀正しく丁寧なあいさつと就業を行い、信頼を得て再度受注されるよう、頑張りましょう。

会員に共通している意識は「シルバー人材センター」の看板を一人ひとりが背負っていることです。

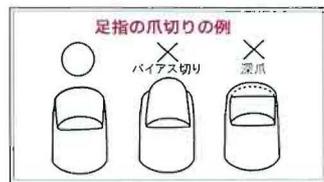
シルバー人材センターの「自主・自立・共働・共助」の原点に立って行動し、会員の増強、就業の拡大を図りましょう。

のが苦痛になります。

こういった症状を予防するためにも、正しい爪の切り方を身につけましょう。(図) 深爪や爪を丸く切る

るのは間違いです。爪を丸く切ると端の部分が内側に巻き込み、巻き爪を発生させる原因になります。サイズの小さい靴を履かないことも大切です。

また、毎日石鹸で足を洗い、水虫にならないよう清潔に保ちましょう。すでに爪白癬(水虫)と思われる症状がある場合は、放置せず皮膚科の医師にご相談ください。



足指の爪切りの例

